

ベトナムの結婚式はどんな感じ？



日本では結婚式をあげる際に人気のシーズンはありますか？ベトナムでは雨が少なく涼しい季節の 9 月～3 月に結婚式を挙げるのが人気です。ベトナムの結婚式は都会の結婚式「式場で行う」と地方の結婚式「実家で行う」の 2 種類があります。今回は「実家で行う」伝統的な結婚式について紹介します。

まずは招待状についてです。だいたい花婿花嫁が招待したい人の名前を手書きで書きます。結婚式の 1～2 週間前に直接招待したい人の家か同僚の場合は会社で配ります。あまり遠くにいる人にはその人の名前を書いた招待状の写真を送ってもいいです。招待される人は両親や自分達の友達、会社の上司、同僚、村全員などです。あまり親しい間柄でない人を招待することもあります。また招待状には独身の人なら「本人＋恋人」、結婚している人なら「本人＋家族」と書いてありますので、招待された人は友達や家族を結婚式に連れて行っても問題ないです。

ベトナムの伝統的な結婚式は 3 日間で、かなり大規模に行われます。1 日目は花嫁の実家で両家が顔を合わせて婚約式を行います。この日の衣装はアオザイ(ベトナムの伝統的な衣装)です。花婿の家族が花嫁の家族に婚約の品物を持って行きます。婚約の品物は、キンマとビンロウジュのセットやお菓子、ワイン、ビール、果物などがあり、縁起が良いと言われている数 5、7、9 の贈り物があります。7 人の花婿介添人が婚約の品物を花嫁の実家の門まで持って行ったら、花嫁と花婿介添人が待っていて、一緒に花嫁家の祭壇まで運び、ここで花婿花嫁が花嫁の祖先に結婚の報告という意味合いでお線香を焚きます。(だいたい婚約式の 2 週間～3 ヶ月後、結婚式を行うのが通例ですが、近年では、婚約式のすぐ後に結婚式を行うケースが多くなってきました。)



花婿花嫁介添え人が婚約の品物運ぶ



婚約の品物

2日目は花婿花嫁のそれぞれの親戚、近所、友達等の招待客で時間帯別で食事会を行います。各時間帯の合計で 500~1000 人くらいが参加するのが一般的です。この日の夜が最も賑やかです。遅くまでお菓子、お茶を飲んだりカラオケやダンスをしたりして盛り上がります。3 日目は花



花嫁を迎えに行く車、バイクの列

婿をはじめ、親戚の出席者が花を飾った車かバイクで長い列を作り花嫁を実家に迎えに行き、花婿の実家で披露宴を行います。披露宴では花婿花嫁の衣装はスーツ、ウエディングドレスで、参加者はパーティー用のドレス、ワンピースでも普段よりちょっとおしゃれできれいな洋服で大丈夫です。



正式の内容は祖先に祈りをささげる、花婿の代表者が正式に結婚することを発表、指輪の交換、ケーキ入刀、家族や親戚からお祝儀のゴールド、お金を花婿花嫁に贈る、両家とともにワインで乾杯、花婿花嫁や家族は各テーブルに飲み物を注ぎに来たり、挨拶するために回ったり、花婿花嫁に歌を贈りたい人や歌手などの出演などがあります。

結婚式のご祝儀(家族や親戚以外の招待客)

昔は結婚お祝いはお鍋、フライパン、まな板などのキッチン用具でしたが、現代ではお金やゴールドになっています。ご祝儀の金額は花婿花嫁との関係性や結婚式の会場、年齢などにより 30 万ドン~100 万ドン(約2000円~7000円)にします。封筒にお金を入れて、直接花嫁、花婿に渡してもいいし、会場で置かれるご祝儀の箱に入れても問題ありません。また、当日出席できない人は、「行けなくてごめんね。結婚おめでとう。」などと言って事前にお祝いのお金を振り込むこともあります。

ベトナムの伝統的な結婚式との違いは多いと思いますが、日本の伝統的な結婚式はどんな感じですか？

